

作業療法を活用した就労支援

広島大学と連携したコグトレによる就労移行準備指導の取組

広島刑務所

広島刑務所では、2019年度（令和元年度）から、広島大学と連携し、作業療法を活用したプログラムの試行庁として、コグトレ[※]による就労移行準備指導を実施しています。

このプログラムの目的は、再犯防止の一環として、一般就労と福祉的支援の狭間にある受刑者に対して作業療法を活用した指導を行うことで、出所後の継続的な就労と円滑な社会復帰に必要な社会適応能力を向上させることにあります。

プログラムの指導者は、作業療法士、教育専門官、刑務官であり、全15単元から成るプログラムを、年間2グループ、1グループおおむね8名で実施しています。

プログラムの受講者は、就労意欲を有し、出所時におおむね65歳以下の者の中から、知能指数や残りの刑期を考慮して選定します。そして、常に受刑者を身近で指導している処遇担当部署の工場担当職員が

[令和3年版 再犯防止推進白書（抜粋）](#)



写真1 コグトレ棒を使用した受講風景



作業行動探索科学研究室 宮口英樹 教授

作業療法学専攻の宮口英樹教授らと広島刑務所との共同研究が法務省の再発防止推進白書に掲載されました！

この取り組みは、作業療法を活用したプログラム（コグトレ）による就労移行準備を指導するもので、対象者の再犯防止に大きく貢献できると考えています。

本専攻では、司法領域の作業療法について先駆的に取り組んでいます！